



「報恩感謝」

校長 菅谷 和孝

先日の学校朝会で「報恩感謝」ということについてお話ししました。これは、「心から感謝の気持ちを持ち、あらゆる人々から受けた恩に報いる行動をすることで、感謝報恩の念抱き、自分自身の行動に対し誇りと喜び、活力を感じながら慢心していくこと」です。

私は毎日通勤をしている中で、以下の様なことを度々考えています。

- ・あの人(早朝から商用車を運転している人)は何時に起きて、何時に帰宅しているんだろう。
- ・この弁当はどれだけの人が関わって商品の陳列までに至っているんだろう。
- ・この便利な機器(セルフレジや電子決済機能など)は、どのような過程(発想)で誕生したんだろう。

などといったことです。これは日々生活している中で、ごくごく自然に溶け込んでいますが、「世の中には私の知らない世界がたくさんあるんだ」と再認識させられる思いになります。

学校生活においては、生徒、その生徒と直接かかわるの事の多い先生という立場がクローズアップされがちになります。しかし、日々落ち葉の掃き掃除や破損した箇所の修繕などをしてくれる校務員さん。定刻に給食が食べられるよう配膳の準備や片づけをしてくれる給食配膳員さん。様々な諸手続きや公費の取り扱いなどを担ってくれている事務の先生。自分の仕事があるにも関わらず、学校のために除草作業や各行事のサポートをくださる PTA の方々、安全に登下校ができるようにと見守ってくれている地域の方々など、私たちが日々安全に安心して学校生活を送れるには、陰ながら支えてくれている多くの方々が居てからこそだと感じております。



よく、活躍するスポーツ選手のインタビューの内容の中で、「応援してくれている方々のために」とか「支えてくれたスタッフのために」「今回参加できなかった〇〇のために」など、誰かのためにということを耳にします。これはトップレベルの人だから言えるわけではなく、このような感謝という想いを、日々の練習の時点から感じながら、様々な行動や実践をしているからこそ生まれてくる言葉だと思えます。つまり、人は自分自身の事だけでなく、誰かのためにという想いが強ければ強いほど決意が高まり、努力し続けられるのではないかも感じます。



これから体育祭や合唱コンクール、スキー教室や修学旅行、学校総合体育大会をはじめとする各競技会、そして受検(験)と多くの活動があります。その活動を通じて、生徒たちは様々な経験をすると同時に、多くの方々と接していきます。生徒たちには、当たり前を感じるようなことだからこそ、その行為や状況、審判などの運営に携わっている方、応援してくれる全ての方に感謝すること。自分が全力で臨むために、自分の目標(夢)を実現していく過程の陰には、誰かの仕事があって成り立つということ。そして、そのことを忘れず感謝をし、一生懸命努力し続けてほしいと感じます。